



歯周病が関わる全身のさまざまな病気を知ろう

骨粗しょう症

骨密度が低くなり、骨がもろくなる病気。歯周病によって産生される炎症性物質が全身の骨の代謝に悪影響を及ぼすためと考えられています。

糖尿病

歯周病の進行により産生する炎症性物質が血液中に入るとインスリンの働きを低下させるため、血糖値が下がりにくくなります。

心臓病

歯周病が引き起こす動脈硬化により、心臓に血液を送る血管が狭くなったり（狭心症）、詰まったりします（心筋梗塞）。また、心臓の内膜に歯周病菌がつくと、心内膜炎を引き起こし、命にかかわることもあります。

関節リウマチ

手足の関節が腫れて、痛みやこわばりが起こる病気です。多くの研究により、歯周病の人は関節リウマチのリスクが高いことがわかっています。

肥満

歯周病が進んでいる人はメタボリックシンドロームの発症が1.6倍高まることが報告されています。

認知症

歯周病が引き起こす動脈硬化は、脳血管性認知症の原因になる可能性があると考えられています。また、アルツハイマー型認知症との関連も明らかになりつつあります。

脳梗塞

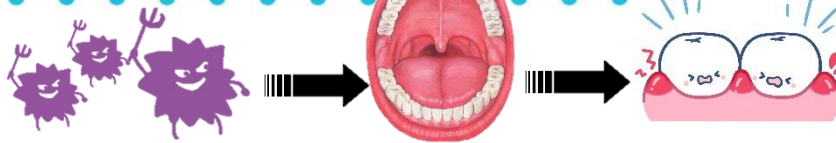
脳梗塞とは脳の血管が詰まったり、心臓にできた血栓が脳に送られて血管が詰まったりする病気です。歯周病にかかっている人は、そうでない人の約2.8倍脳梗塞になりやすいという報告があります。

誤嚥性肺炎

歯周病菌などのお口の中の細菌が唾液や食べ物と一緒に誤って気管に入ると、肺炎発症のリスクが高くなります。



歯周病の正体は細菌感染症



歯周病はポルフィロモナス・ジンジバリス菌などの細菌（歯周病菌）が増えることによって起こる病気です。歯みがきが不十分だと、歯の表面にネバネバとした歯垢（プラーク）がつくられます。この歯垢は細菌のかたまりで、歯周病菌も歯垢の中で増え続け、炎症を起こして歯を支える組織（歯周組織）を破壊していきます。歯周病菌は腫れた歯肉から容易に血管内に侵入し全身に回ります。

またむし歯菌も体中をめぐることで全身に影響を及ぼすことがわかってきました。

近年、特に関連が明らかになってきているのが、脳と心臓です。これはむし歯菌も歯周病菌のように、脳卒中（脳血管疾患）や狭心症・心筋梗塞（冠動脈疾患）などを引き起こす動脈硬化の発症に関係しているからと考えられているからです。



お口の中のことで気になることがございましたらお気軽にご相談ください。